

蒙古の歴史的研究の蘊蓄の一端を公にせられたもので眞に有益なる快著と謂ふべきである、凡て三十四章に分れ蒙古と清朝との複雑なる政治的經濟的關係より宗教的關係を論述し、清朝末の蒙古の新政施行より露西亞との關係を探り露支蒙相互の關係を論評し一九一一年の蒙古獨立の顛末外蒙古獨立宣言後の露支蒙關係を説明し最後に最近の形勢の激變を述べ、複雑せる政治的經濟的關係を述ぶるに豊富なる史料を經こし高邁なる識見を緯こし讀む者をして此の一嚮を嘗めては更に全羊を思はしむるもの、その名は學術的論著なりと雖も同時に我が國策の將來にこりての經世の最良參考書、學者は勿論苟くも支那蒙古問題を論じ我が國の將來を考ふる人士には必ず再讀三讀するを要すべき寶典なりとする。(菊版四六八頁、京都寺町丸太町弘文堂、價四・五〇)【那波】

● 燕吳戟筆

文學士 那波 利貞著

大正八年秋、著者禹域に遊び、北燕京より南錢塘に至る。歸來久しく其紀行を「歴史と地理」に連載せられしが

未だ全程の半に達せず、依て其全般を簡明に拔萃したるもの乃ち是。著者の博識なる、沿道各地の古今沿革風俗人物を叙述するに極めて詳細にして、雜ふるに身親しく經驗せる實地の感想を以てすれば、後に此地に遊ぶ者の懷中に缺くべからざる好伴侶なるを疑はず。(四六版五〇八頁、同文館發行、價三・八〇)【宮崎】

The Cambridge Ancient History. Edited  
by J.B.Bury, F.B.A., S.A.Cook, Litt.D.,  
F.E.Adcock. Volume II. The Egyptian  
and Hittite Empires to c. 1000 B. C.  
(Cambridge: University Press; New York:  
Macmillan Company. 1924.p.p. xxv. 751,  
35s.)

ケムブリッジ古代史は歐洲民族史の第一部として計畫されしものにして、その第三部をなす近世史十三卷(一九〇二—一九一一)は既に完成し、第二部をなす中世史は出版繼續中にして昨年第四卷を世に出してをる。近世史はアクトン卿・中世史はビュリー教授の意匠になり